



令和8年1月13日

報道機関各位

熊本大学

【文書館R7年度企画展／水俣病公式確認70年記念】  
ストーリーズ  
塩田武史写真展～フィルムからひらく、人びとの物語～

どこか故郷に似た水俣を愛し、水俣病の患者家族とのつきあいを重ね、ようやく人びとにカメラを向けた写真家・塩田武史（1945～2014）。本展では、武史さんが生前公開した写真、遺族である妻・塩田弘美さんや写真家仲間の語り、一般社団法人「水俣・写真家の眼」の活動、弘美さんと当館が協働して作成したネガフィルム・データベースを活用して新たに見つかった未公開写真から、武史さんが生涯大切にした水俣のイメージをみつめます。そこには、人びとの日常の表情、土地の暮らしや記憶の細部が映し出されています。

会期中に、塩田弘美さんを案内人とするギャラリートークと、写真と物語に関するトークイベントを開催します。展示とあわせてぜひご参加ください。

広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしくお願ひいたします。

記

【会期】令和8年2月4日（水）～2月21日（土）

【会館時間】10:00～16:00 最終入場 15:30

【会場】熊本大学五高記念館

【対象】一般の方（興味がある方はどなたでも）

【観覧料】無料、申込不要（ギャラリートーク、イベントも同様）

【ギャラリートーク】案内人：塩田弘美、香室結美

・日時：令和8年2月8日（日）14:00～14:30 会場：熊本大学五高記念館

【トークイベント】「写真は語る？写真との対話と物語のはじまり」

・日時：令和8年2月8日（日）15:00～17:00 受付 14:30～

・会場：熊本大学黒髪北地区文法学部本館1階くまトヨ講義室

・登壇者：塩田弘美、香室結美、横谷奈歩、真島一郎／司会：下田健太郎

【主催】熊本大学文書館 【後援】熊本県

【協力】熊本大学キャンパスミュージアム推進機構、一般社団法人 水俣・写真家の眼、  
JSPS 科研費基盤研究（A）JP22H00036「21世紀における他者の痛みの交差性」（代表者：慶田勝彦）、  
熊本大学大学院人文社会科学研究部附属国際人文社会科学研究センター学際的研究資源アーカイブ領域

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

[http://archives.kumamoto-u.ac.jp/info/info\\_20260106.html](http://archives.kumamoto-u.ac.jp/info/info_20260106.html)

【お問い合わせ先】

熊本大学文書館

担当：香室 TEL：096-342-3951

email:archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp



©Takeshi Shiota

熊本大学文書官房7年度企画展 / 水俣病公式確認70年記念

# 塩田武史写真展

ストーリーズ

スルレムからひらく、人びとの物語。

期間 2026年2月4日(水)～2月21日(土)

10:00～16:00 (最終入場15:30)

会場 熊本大学五高記念館

入場無料

申込不要

「その頃は何とも思わなかつたカットが、  
捨てがたいものとして浮かび上がつてきた。  
一枚一枚の写真が語りかけてくる」

(僕が写した愛しい水俣 塩田武史、2008年、三貴、岩波書店)

## ギャラリートーク

日時 2月8日(日)14:00～14:30(塩田弘美、香室結美)

会場 熊本大学五高記念館

## トークイベント

写真は語る？写真との対話と物語のはじまり

日時 2月8日(日)15:00～17:00

会場 熊本大学文法学部本館1階くまトヨ講義室

主催：熊本大学文書館

後援：熊本県

協力：熊本大学キャンパスミュージアム推進機構、一般社団法人 水俣・写真家の眼、

JSPS 科研費基盤研究(A)JP22H00036「21世紀における他者の痛みの交差性」(代表者: 慶田勝彦)、

熊本大学大学院人文社会科学研究部附属国際人文社会科学研究センター学際的研究資源アーカイブ領域



どこか故郷に似た水俣を愛し、患者家族とのつきあいを重ね、ようやく人びとにカメラを向けた写真家・塩田武史（1945～2014）。彼はどのような人で、どのようなイメージを残したのでしょうか。

本展では、塩田武史さんが生前公開した写真、遺族である妻・弘美さんや写真家仲間の語り、そしてネガフィルムに収められた未公開写真から、武史さんが生涯大切にした水俣のイメージをみつめます。そこには人びとの日常の表情、土地の暮らしや記憶の細部が映し出されています。

展示は二部構成です。第一室では、塩田武史さんが生前公開した写真を展示します。第二室では、弘美さんと当館が協働して作成したネガフィルム・データベースと未公開写真、弘美さんと共に武史さんのアーカイブづくりを進める「水俣・写真家の眼」の活動を紹介します。



©Takeshi Shiota

## トークイベント 入場無料、申込不要

### 写真は語る？写真との対話と物語のはじまり

日時 2026年2月8日(日)15:00～17:00 受付 14:30～

会場 熊本大学文法学部本館1階くまトヨ講義室

※同日14:00～14:30、五高記念館にてギャラリートークが開催されます。

あわせてご参加ください。

司会 下田健太郎（熊本大学准教授）

15:00 開会挨拶 文書館長 高野博嘉（熊本大学教授）

15:05 塩田弘美・香室結美（熊本大学文書館 特任助教）

「水俣の人と風景—塩田武史のまなざしからひらく物語」

15:35 横谷奈歩（九州大学助教・美術家）

「ある美術家による歴史の残し方—小さな声と対話して」

16:05 コメント 真島一郎（東京外国语大学教授・文化人類学）

16:25 休憩

16:30 フロアディスカッション

17:00 閉会挨拶



©Takeshi Shiota

## 問い合わせ

熊本大学文書館

TEL 096-342-3951

email [archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp)

HP <http://archives.kumamoto-u.ac.jp/>

トークイベントに関するお問い合わせは、  
2月6日(金) 15:00までにお願いします。



## プロフィール



### 塩田武史

1945年、香川県生まれ。法政大学在学中にカメラ部所属。新聞報道にふれ、1967年に初めて水俣を訪れる。1970年に水俣市に移住、家族と共に同地で15年間過ごした。週刊『アサヒグラフ』を中心に写真を発表し、1971年銀座ニコンサロンで初の個展開催。『塩田武史写真報告水俣'68-'72深き淵より』(西日本新聞社、1973)、『僕が写した愛しい水俣』(岩波書店、2008、第30回熊日出版文化賞受賞)。2014年死去。



### 塩田弘美

熊本市在住。1972年に武史と結婚。水俣で暮らし、三人の子どもが生まれた。水俣病第一次訴訟や自主交渉にも同行。武史と共に患者家族や地域とつきあい、現在も交流を続ける。



### 横谷奈歩

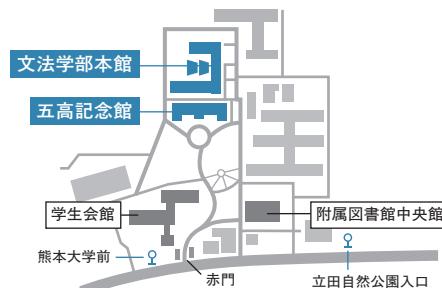
美術家、九州大学芸術工学研究院助教。国内外にてフィールドワークをしながら、個人の歴史や物語を元に作品制作を行う。近年の主な発表と滞在制作に、「星劇団再演プロジェクト」「高橋家にまつわる物語」(広島県尾道市)、「いにしによる一断片たちの囁きに、耳を—」(高松市塩江町)、「芸術と考古学—春休みの遺跡—」(杉沢遺跡／伊吹山文化資料館、2019)、「アートとサイエンスのあいだ」(イタリア、ブルキナファソほか2012-2015)等、共編者として『アートと人類学の共創』(水声社、2024)がある。

## 会場

展示・ギャラリートーク 熊本大学五高記念館

トークイベント 文法学部本館1階くまトヨ講義室

熊本市中央区黒髪2丁目40番1号



大学構内の駐車場は有料です。

(1時間超え4時間以内 500円/4時間超え24時間以内 1000円)

学内の駐車場が不足しておりますので、公共交通機関をご利用ください。



©Takeshi Shiota